

ピンクがモチーフのビジネス



広島工業大学名誉教授 中山勝矢



(写真1) 何ともエレガントなピンク華麗(カレー)
(色は赤ビーツによる。)
[資料提供: ブリリアントアソシエイツ(株)
(以下同じ)]

戦後すぐの夏、いわゆるハイティーンの入りの頃、小学校の同期会をやるという話が出てきました。それで誘い合って、数人がある女子生徒の家を訪ねたのです。

当時のバラックもどきの家から、当人がフリルのついた薄手の綺麗なピンクのブラウスを着て出てきたので、吃驚。一同は、かなり強烈な印象を受けたのでした。

その後、友人たちは「お前はいつも、あの子の名を真っ先にいう、好きになったんだろう」と勝手に決めつけ、からかうのには閉口しました。

● 驚きのピンクカレー

かつて街ではサーモンピンクとか、ときにはショッキングピンクと呼ばれる色が溢れたことがありました。その色を基調に、多くの衣料関連の商品が生まれたはずですが。

確かに、色が鮮やかであり、素敵なデザインで纏められた衣装を着けている人は、目を引きまします。「今日は何かいいいことでもあるの?」と聞いてみたくになります。

最近はお目にかかることが少なくなったとはいえ、夢を蒔き、夢を着て、さらにビジネスに育てることは悪くありません。先例として、考えてもよいのではないのでしょうか。

それはそれとして、平成26年7月にピンク華麗(カレー)、同じく27年1月にピンクの醤油を売り出した企業があります。鳥取市のブリリアントアソシエイツ(株)です。

この話を社長の福嶋登美子さんから聞いたとき、例の茶色のカレーを頭に浮かべながら「それー、辛い?」と行ってしまいました。写真では確かに、ピンクなのです。(写真1)

色はピンクでも、味は本格派のカレーだと説明されると興味が高まります。この新顔カレーは、赤ビーツがベースなのでピンク色なのだということで納得できました。

これは姉妹レストラン「大榎庵(おおえのきあん)」の看板メニューになっているし、さらにレトルト化したものは東京での販売で大きな話題になってきています。

着想が豊かで、平成27年1月にはピンクシリーズ第2弾を打ち出しました。なんとピンク色の醤油でした。次々と誕生するピンクを基調にした商品には圧倒されます。(写真2) 1



(写真2) いまや通販でも扱うピンク色の醤油

なお調べてみると、ピンクカレーもピンク醤油もネットを通じて広く知れ渡り、ぜひ入手したいという要望に応じて、すでにアマゾンや楽天が通販で扱っているとありました。

●夢に溢れたマチ起こし

その前の平成24年から、とっとり「山の手」文化の発信を意図してマンガキャラ「華貴婦人」4姉妹、衛兵「チャールズ君」、「うさぎ」キャラなどにも挑んできました。

フレンチルネッサンス様式の天皇家由来の建築「仁風閣」が、とっとり山の手物語フェアの舞台です。ここに、華やかでかわいらしいキャラが出演するのです。(写真3)

街には、こういった絵柄を描いたバスも走りますから、市民にも来訪者にも目につきます。夢から生まれたイメージがマチに広がって行くわけです。

華貴婦人をイメージしたピンク華麗といいながら、実は赤ビーツの栽培からカレーの生産販売までを地元で行うところに意味があります。つまり、農業振興の横展開なのです。

心理学的に引き付ける色彩をモチーフにして、夢の世界を築いて見せるのはマチ起こしの手法の一つです。今後の課題は、ディズニーが描いた夢のパークを超えることです。

こうした視点を持って先に進まないと、発展する東南アジアに対し輝きを保てません。夢を描き、夢を感じて夢を味わい、夢を体験したいのは、人間の本来の欲望です。(写真4)

欧州の古き良き時代の宮廷婦人を模した衣装から、想ったことのない食品までピンクをベースにまとめ、ビジネスに、さらにマチ起こしに展開するとは、素晴らしいことです。

こうすることで、ブリリアントアソシエイツ(株)の福嶋登美子社長さんには、平成28年度の中国地域ニュービジネス大賞の優秀賞が授与されたのでした。



(写真3) 華貴婦人4姉妹を囲んで、衛兵「チャールズ君」、向かって左側後方にうさぎのキャラが見える。こうした絵柄のバスが町中を走っている。



(写真4) 夢に溢れたマチ起こしの催し

詳しくは、次のホームページをご覧ください。

[ウェブサイト「華貴婦人：ピンクカレー＆ピンク醤油」](http://www.hanakifujin.com/)

<http://www.hanakifujin.com/>